



荒田小学校（鹿児島市）

自分の意見まとめる

実践校1年目は「新聞を目にする」環境づくりを力を入れた。クリアファイルに新聞各紙を入れ、階段の踊り場に掲示。複数紙の1面を見比べることができるようにした。図書室には、本を借りるために並ぶ列の近くに専用の新聞台を設置。日ごろ新聞に親しんでいない児童が、手に取りやすいように工夫を凝らした。読者投稿欄にも積極的に投稿した。

5年生の2クラスで

は、自宅学習にも新聞を活用している。1日目は記事に出てきた分からない単語の意味を調べ、2日目にはその記事に対して自分の意見を書くようにした。

NIE担当の福園徹教諭は「日記に出来事をただ書き連ねていただけだった児童が、自分の考えをまとめられるようになった。社会の出来事について、家族で話す機会も増えたようだ」と手応えを語る。（高野寛子）



大隅南小学校（曾於市）

低学年が片仮名集め

大隅南小学校は、実践校4年目。昨年11月の研究授業では、読める漢字が少なく、新聞活用が難しいとされる1、2年生への効果的な実践方法を探った。

まず教科書で片仮名の読み方や外来語、擬声語など片仮名表記する言葉の決まりを学んだ後、新聞から片仮名を拾い出した。さらに2年生は決まりに従って分類した。授業後の討議では、児童にとって難しい言葉もある

が、未知の言葉に触れる意義が指摘された。外山孝浩教頭は、4年間の取り組みで「新聞が身近になった」と語る。記事の感想を書き、家族に意見をもらう「ファミリーフォーカス」では、親子の会話が生まれたという。一方、新聞活用がどう学力向上につながったか明確にしづらい点が課題と指摘。「成果の具体的な把握が、持続的な取り組みにつながる」と話した。（園田尚志）

かごしま

NIE実践校

学年、肩書きなど取材当時